

防コミの歩き方

BOSAI
KOBE
MIRAI

各国政府等から来日したJICA研修員20人が放水訓練をしました。

秋晴れの長田区・若鷹公園。青空に、4本の水柱とともに歓声が上がりました。

放水しているのは、1口は若鷹市民消防隊の女性隊員、そして残り3口は各国政府等から来日したJICA研修員です。

消防局予防部予防課では、10月15日から11月22日までの39日間、JICA研修「コミュニティ防災」コースを開催しました。自然災害罹災経験国の中央政府・地方府のコミュニティ防災活動を推進しうる立場の行政官等を神戸に招き、阪神・淡路大震災を契機に設立された神戸独自の自主防災組織「防災福祉コミュニティ(BOKOMI)」を自国に設立、もしくは活動を取り入れてもらおうという取り組みです。今年度は、地震、津波、土砂災害などに悩まされているアジア・中米・南太平洋など11カ国から19人の研修員およびブータンからの留学生1人が来神しました。

研修の一環として、整列、「番号!(もちろん日本語)」、ホース延長、ホース巻き、そし

てポンプ2台と分岐器を使用した4口放水訓練など、一連の小型動力ポンプ操法を、市民消防隊の皆さんに手振り身振りで指導していただきました。小型動力ポンプが市内300箇所以上に配備されていること、若鷹公園では10年以上にわたって毎月1回、1時間の訓練が継続されていることを伝えると、「我が国でも訓練を取り入れたい」と声が上がりました。

若鷹公園周辺は、阪神・淡路大震災で997棟が焼損し73人が亡くなった地域でもあります。

阪神・淡路大震災の教訓によって生まれた防コミ活動を伝えるとともに、外国における「BOKOMIファン」を増やした一日でもありました。

最後になりましたが、「若鷹市民消防隊」と「ひだまり公園市民消防隊」の皆さん、丁寧な指導ありがとうございました。

(予防課 大津暢人)

